

子どもの希望を
かなえるための!

“進学マナー”の 備え方

受験準備から
大学・専門学校入学まで
早めの情報収集がカギ!

保護者も子どももそろそろ高校生活に慣れてきたころでしょうか？
これからの3年間をどう過ごしてほしいか、
そんな思いが膨らむなかで、卒業後の進路のことまで、
とても考えられないと思われるかもしれません。
しかし、進学に必要な費用については、3年生になってから
準備するのでは間に合わないことも…。
高3になってからあわてないためにも、今のうちから
どの時期にどれくらいお金が必要かを知っておき、
事前に準備を進めておきましょう!



構成・取材・文/インタープレス(光田洋子、三浦美紀) イラスト/ハラアツシ

高校3年間で

親子でやっておきたいことチェックリスト

高3

- 日本学生支援機構の奨学金は高3の春に募集・応募するので利用する可能性があれば申し込む
- 学資保険などに加入していたら保険金の受取時期と金額を確認し進学費用の一部に充てる
- 志望校と受験方法を決めたら納付金の支払い時期を調べ早めに手元に用意しておく
- 遠方受験をする場合は交通手段や宿泊費用を調べ、宿や切符は早めに予約・手配する
- 出願前に入学前予約採用型奨学金や学校独自の奨学金なども調べ、募集時期にしっかり申し込む

高2

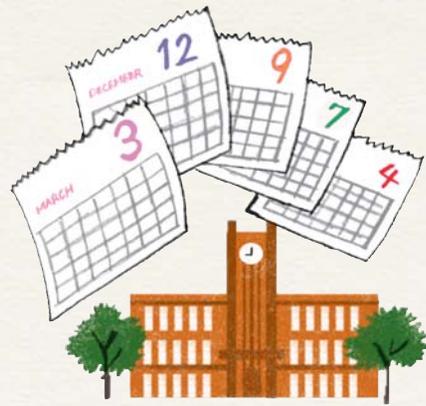
- 日頃から親子のコミュニケーションを深めておき、進路について希望の変更はないかを話し合っておく
- 高校在学中の補助学習費などで進学費用に差し障りはないか家庭でも注意しておく
- 子どもの成績なども考慮して特待生制度や給付型奨学金を調べ、利用できないかを検討する
- 子どもの先輩や親から話を聞き、受験にかかる費用や学校納付金の情報を集めておく
- 志望する学校を含めた多様な入試制度をチェックし、受験方法など検討しておく

高1

- 高校卒業後の進路について親子で話し合い、進学希望なら志望の学部やコースを確認しておく
- 受験方法の違いも知って志望コースにかかる進学費用や塾代などの目安を調べておく
- 現状で進学費用が不足する場合はこれから準備できる額を検討し不足する分の工面の仕方を考える
- 奨学金の種類や教育ローンも調べ、給付型奨学金も念頭におき学業成績を保つように子どもに促す
- 複数の子どもがいる場合は進学資金が不足にならないように子どもにも費用の限度を話しておく

進学準備は計画的に

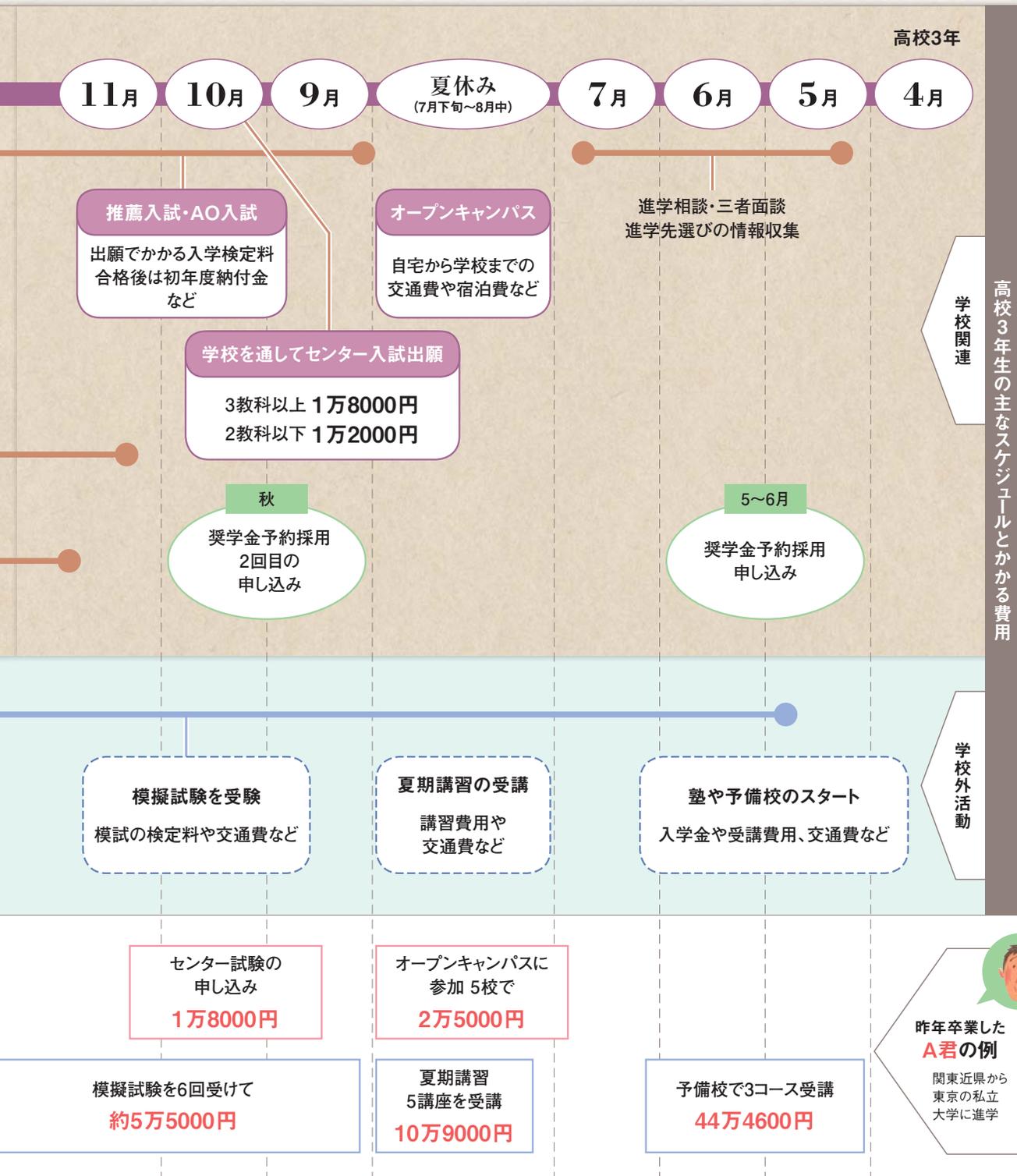
いつ、どんなお金が必要なのか
年間の出費を事前に知っておく



高3から受験準備も本格化
細かい出費も増えてくる

高校1・2年では漠然としていた進学先も、高3になると志望校を絞り込み、受験方法を決めて、準備を進めていく時期になります。無事進学するまでの1年間には、さまざまな費用が発生し、保護者はそれらの費用を準備したり、工面することが必要になります。下に主な費用をあげてみましたので、ご覧ください。

まず、受験校を絞り込むまでには、学校案内の資料やインターネットで情報を集める必要があります。情報収集にはあまりお金はかかりませんが、最近では夏休みなどに実際に大学や専門学校を訪れて確かめる「オ



「オープンキャンパス」に参加する人が多くなっています。その際には交通費のほか、遠方の学校なら宿泊費もかかることがあります。

一学期から予備校や塾に通い始めれば、その費用も必要ですし、夏期講習・冬期講習だけでも、それぞれ10万円前後かかるのが一般的。受験までに全国型の模試などを何回か受ければ、その費用もそのつど発生します。参考書や大学別の過去問などのテキスト代も案外かかります。

秋から冬にかけては、出願のための費用や受験料、試験当日の交通費など、さまざまな出費が続きます。

最大の山は、入学手続きの際に支払う初年度納付金です。一般入試なら年明けの2月から3月に支払いますが、推薦やAO入試で入学する場合は秋に納めることが多いので、早めに準備しておかなければなりません。

また、入学先が地元以外で、自宅外からの通学になれば、住まいを決めて引越すまでの費用も発生。

一番下は、先輩のA君が都内の私立大学に入学するまでの1年間にかけた費用で、合計すると300万円以上の出費になったそうです。

人によって進学費用には違いがありますが、年間ではかなりの負担になります。次のページから費用の内訳や詳細をチェックしてみましょう。

大学または専門学校1年

4月

入学式

入学前後にかかるお金

- ・入学式のスーツ代など
- ・通学定期代など
- ・自宅外通学の場合
家賃や敷金・礼金、生活用品の購入費など

3月

入学手続き

- ・初年度納付金
(入学金や授業料など)
- ・滑り止め校入学金 など

1月

一般入試・センター試験の
出願&受験

出願時の入学検定料や
試験当日の交通費・宿泊費など

冬休み
(12月下旬~1月上旬)

12月

大学の
入学前予約採用型給付
奨学金の申し込み

教育ローンを
申し込むならこの時期
(一般入試の場合)

冬期・直前講習の受講
講習費用や交通費など



高校3年4月から
入学までに
かかったお金

合計
約**333**万円

新居の敷金・礼金、
引越し代、
上京費用、
スーツ代など
約82万円

進学する
大学の
初年度納付金
を納める
125万円

国立大・私大合わせて
6校受験した
検定料、交通費ほか
24万円

滑り止め校の
入学金を納める
25万円

センター試験
の受験
2日間の交通費
1万円

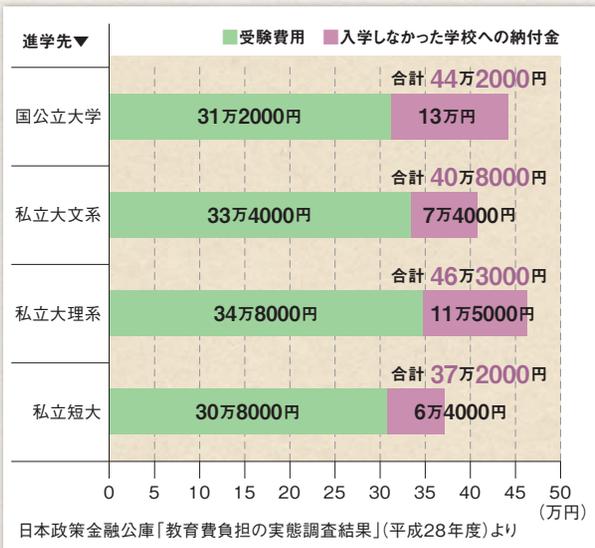
冬期講習
5講座を受講
10万9000円

受験にかかる費用

一般入試で複数受ければ
受験費用だけで40万円以上

今は受験生のためにオープンキャンパスを開催する学校が増え、複数参加すれば意外に交通費がかかりません。入試方法も複数から選択できますが、どの方法を選ぶにしても、試験は1回ごとに検定料の支払いが必要。推薦やAO入試を選び、1回で合格すれば数万円ですみます。ただ、この方法でも1回で合格せず、何度か受験する人も。また、一般入試を選べば、滑り止めも含めて複数校受験することが多く、その分、受験費用も高くなります。一般入試は、国公立のほか、私立でもセンター試験を採用する大学が多く、センター試験は秋の申し込み時と、受験する学校ごとにそれぞれ費用がかかります。私立大学のセンター利用入試は、一般入試に比べれば安いのですが、いくつかの多めに出席し、結果的に出費がかさむことも。受験費用の平均は約40万円ですが、交通費や宿泊費を含め50万円以上かかった人もいます。受験校を絞り、下段の割引制度などを利用して抑えることも検討を。

●受験にかかった費用の平均額



●大学に進学した人のオープンキャンパスに行った学校数



何校受けるかで大きな違い
割引制度も賢く使って

●入学検定料(受験料)

	国立大学	私立大学
推薦入試・AO入試	1万7000円	3万5000円程度
大学センター試験(申し込み時)	3教科以上 1万8000円	2教科以下 1万2000円
※4月に送られてくる成績通知が必要な場合、別途800円かかる		
国立大学	一般入試(前期・後期)	1万7000円
私立大学	センター利用入試	1万~2万5000円
	一般入試	3万5000円
参考		
出願手続きでかかる費用	・入試要項の購入費用 ・出願書類の郵送料 ・検定料の振込手数料 ・証明写真の撮影料 など	
専門学校	一般入学	2万円程度(免除制度あり)

●大学の受験費用が割引になる方法

- ネット出願** 学校によってはインターネットでの出願は、郵送での出願よりも、検定料が1回につき3000円~5000円程度割引になることがある
- 学内併願制度** 1回の出願や試験で複数の学部・学科を受験すると、通常1回につき3万5000円程度の検定料が、2学部(学科)目からは少し安くなる

- 会場選択制** 大学の所在地のほか、全国の複数都市の試験会場から1カ所を選択して受験する制度。自宅近くの会場で受験すれば、交通費や宿泊費の節約になる
- センター利用入試** センター試験の成績で合否を決める入試方法。上の検定料の通り一般入試よりも安くなるが、募集人員が異なるため入試の倍率が高くなることもある



模試・講習などの費用

子ども自身の希望を聞いて
家計とのバランスで考えよう

交通費・宿泊費

子どもが塾に行きたいと言ったときのために

付属大学や推薦・AOで進学する生徒が多い高校では、高3になっても意外にのんびり構えている場合もあるでしょう。一方で3年になった途端、部活や生徒会活動を引退し、受験モードに切り替わる高校もあります。後者の場合、3年の一学期から塾や予備校に通う生徒が増加します。そうでなくても、予備校の夏期講習や冬期講習は受講する人が多く、子どもの希望や学力によって、下のような出費を伴う家庭が増加します。

一般入試の場合、受験する大学を考えたとき、絞り込んだりするために、全国規模の模試を受けるのも一般的。1回の模試の費用は安くても、複数回受ければ、交通費なども含めてそれなりの出費になります。さらに、通信教育や家庭教師を頼めば、その分の費用もかかるなど、受験勉強のために家庭で支払う教育費も、年間を通すとかなりの金額になります。入学時に納める分の貯蓄を取り崩さずにすむように、こうした出費も予算を組んで考えておきましょう。

学校外にかかる費用の例

●夏期講習・冬期講習を受ける場合 (全国規模の大手予備校の例)

入学金	講習の初回のみ	4100円
夏期講習	1講座あたり2万1800円 ×5講座	10万9000円
冬期・直前講習	1講座あたり2万1800円 ×5講座	10万9000円
合計		22万2100円

※年間コースを受講している場合は、入学金は無料、講習費は割引あり

●模擬試験を受ける場合 (全国規模の模試)

模試関連	記述式、マーク式など、5~12月までの間に受験	1回 4700~5600円
	・リスニング機器レンタル費用(3回のみ)	1回 1100円
	・成績結果の返却手数料	1回 500円
※通学している予備校の模試は、無料のことが多い		
その他費用	自宅~会場までの交通費 往復約2000円×6回	1万2000円
	昼食代1000円×6回	6000円
合計	(6回受験の例)	約5万5000円

●年間を通して塾や予備校に通う場合 (全国規模の大手予備校の例)

入学金	入学時のみ	3万円
※夏期講習・直前講習を受けた場合などは、割引あり		
年間授業料	3科目・3コース (1コースは週1回でコースにより) 年10万2000円~24万1200円 英語・現代文・数学で	44万4600円
合計		47万4600円

●通信教育を利用する場合 (大手通信教育の例)

基本料	情報料などの諸経費	年間 2万4000円
講座	本科1講座3万8400円×3講座 (セット割引適用後)	10万6800円
合計		13万800円

※12カ月分を一括で支払う場合

●宿泊費の受験生パックの例

◆ビジネス系ホテル(東京・新宿)	
[特典] ●加湿器、スタンド等を無料貸し出し(数量限定) ●試験会場までの交通機関、道順の案内 など	
1名 [1泊朝食付・シングル]	7000円~
◆シティホテル系ホテル(東京・水道橋)	
[特典] ●加湿器、電気スタンドを常備 ●部屋の周囲も受験生の部屋にする など	
1名 [1泊朝食付・シングル]	1万4500円~

学校見学から受験まで1回の費用を調べておく
自宅から遠い大学や専門学校を希望する場合、オープンキャンパスに参加したり、学校見学で下見に行ったりするだけでも、交通費や宿泊費がかさみます。1回の下見で複数の学校を効率的にまわる工夫も大事。受験当日にも同様の費用がかかるので、往復の交通費などは事前に確認しておきましょう。

受験シーズンには、左のような宿泊パックを用意するホテルもあります。国公立大学は前泊を含めて最低2泊、1回の滞在中で複数校を受けると1週間かかることもあります。便利で手頃な宿を探すなら予約は早めが肝心です。

入学手続きでかかるお金

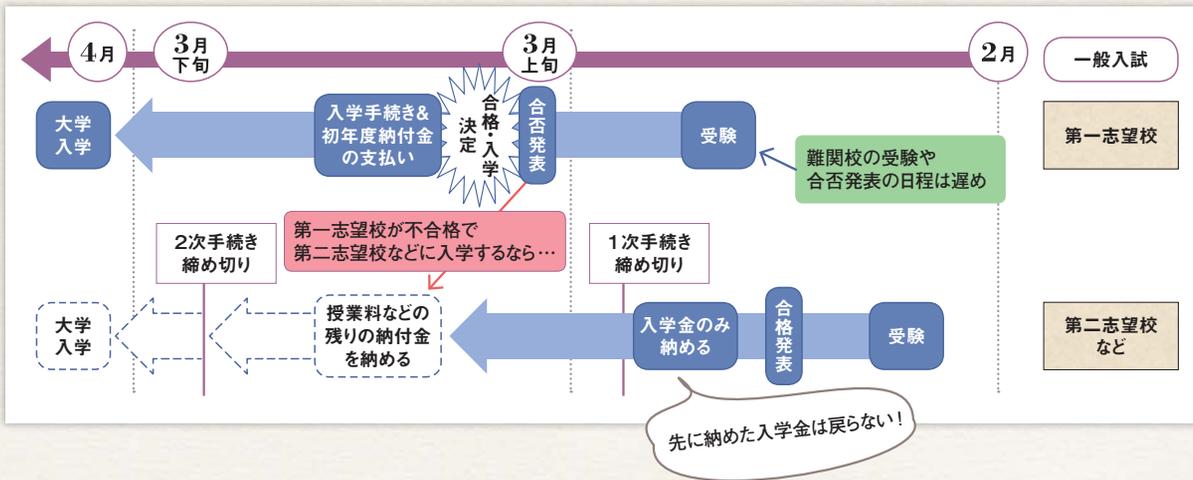
100万円以上のお金を
用意しておく必要も

入学する学校が決まったら、合格発表から1〜2週間のうちに入学手続きを行い、その際に初年度納付金を納める必要があります。その内訳は入学金と授業料、施設設備費、諸会費などで、金額は学校や学部ごとに異なり、平均額は下図の通りです。

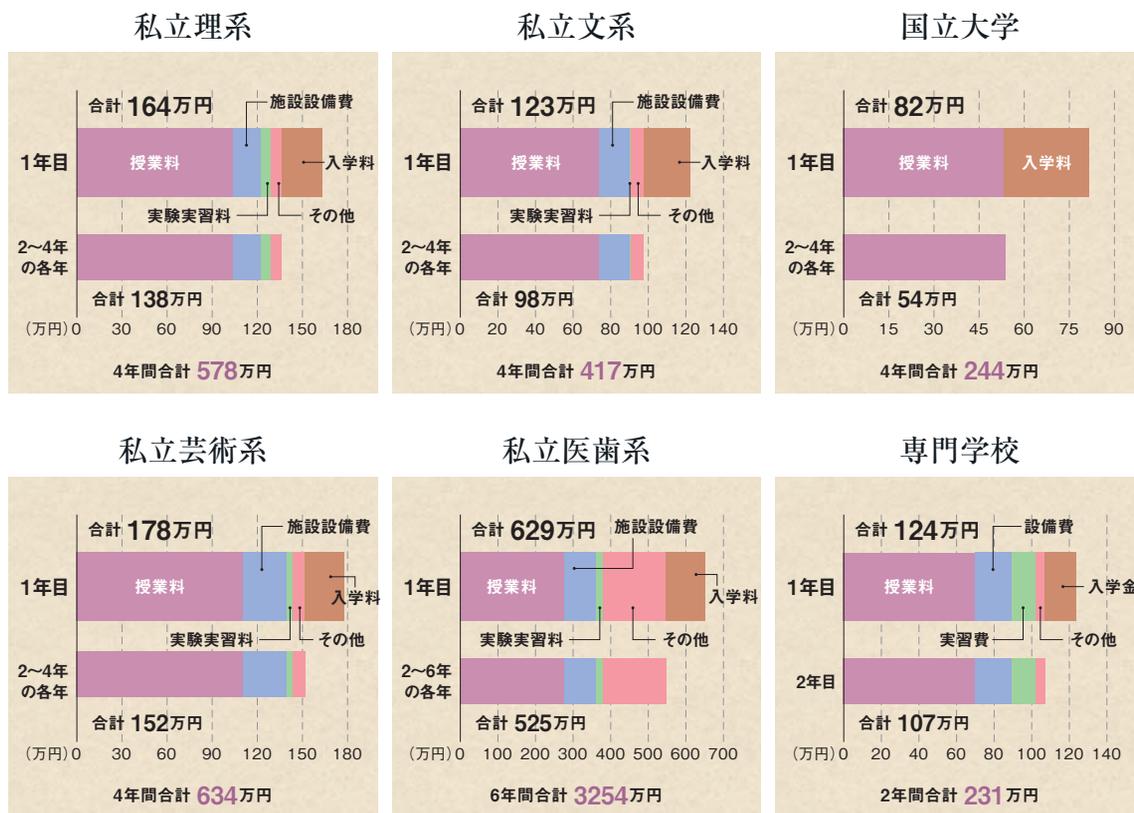
国立大学は82万円、諸経費はかかっても数万円程度。公立大学もほぼ同じで、入学金のみ地元居住者は安くなる大学もあります。一方、私立大学は文系学部が平均123万円ですが、理系や芸術系学部は160万〜170万円台。医歯系学部は600万円以上。このうち、授業料だけは前期と後期で分割納付もできますが、入学手続きの際には100万円前後かかるのが一般的。

第一志望の合格発表が遅ければ、滑り止めの入学金も必要。ただ、授業料などは下図の二段階納付により、重複して払うことは避けられます。専門学校も学科や専攻コースで納付金は異なりますが、平均では私立文系と同程度になります。

●入学手続きで私大の二段階納付を利用する例 ※入学手続きの1次・2次締切日は学校ごとに異なるので注意



●進学コース別の学校納付金



グラフの納付金は、国立大学は平成28年度の標準額、私立大学は平成26年度入学者の初年度納付金の平均額の調査(文部科学省)、専門学校は平成28年度学生・生徒納付金調査(東京都専修学校各種学校協会)から作成(すべて昼間部)。

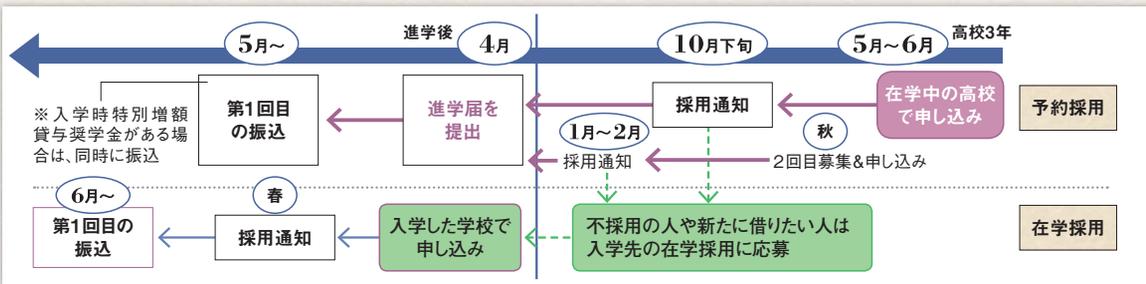
最大の
出費が
初年度
納付金
！
今から
計画的
な準備
を

学費を補う奨学金・ローン

支援機構の奨学金は 高3の春に申し込みを

初年度のほか、毎年かかる学費も心配なら、不足分は奨学金で補いましょう。今や大学生の約半分は奨学金を利用し、そのうち約8割は日本学生支援機構の奨学金です。この奨学金は、高3の春に「予約採用」で申し込みの人が多数。5月頃に学校で説明があったら、さっそく手続きを。秋に2回目の募集がある場合もありますが、春に申し込むほうが安心。予約採用がダメでも、大学や専門学校に入学後に、「在学採用」で再度応募することができます。ほかにも、民間団体や自治体の奨学金を調べてみましょう。大学独自に行う給付型の奨学金も増えているので、条件に合えば応募しては。支援機構の奨学金は卒業後に返済が必要な貸与型ですが、給付型の奨学金を併用できれば、将来の負担は軽くなります。ただ、奨学金は入学後に受け取るタイプが大半なので、入学手続き時には間に合いません。初年度納付金が不足しそうなときは、下図の教育ローンの利用を検討してください。

●日本学生支援機構の手続きの流れ (2017年2月23日現在)



●その他の奨学金

種類	特徴
民間企業・団体	貸与型 給付型
自治体	貸与型が多い
大学独自	貸与型 給付型

将来の社会や地域に貢献する人材育成や、経済的支援のために実施
都道府県や市区町村が、その地域に住む保護者や学生自身に対して実施
成績優秀な学生や、経済的支援が必要な学生に対して実施

●日本学生支援機構

(予約採用・2017年入学者の場合)

大学生の奨学金の利用条件

種類	申し込み基準	貸与金額
(無利子)	学力	高等学校の申込時までの成績の平均値が3.5以上※1
	家計 (4人家族の目安)	給与所得者: 年収747万円以下 それ以外: 年間所得349万円以下
(有利子)	学力	高等学校の学業成績が平均水準以上、学修の意欲があり学業を確実に修了できる見込みがあると認められるなど
	家計 (4人家族の目安)	給与所得者: 年収1100万円以下 それ以外: 年間所得692万円以下
入学時特別増額貸与奨学金	第一種・第二種奨学金の申込者で、右下の「国の教育ローン」を利用できない人が対象	一時金で10万円、20万円、30万円、40万円、50万円から選択

※私立の短期大学や専門学校で第一種で利用する場合、貸与月額が異なる
※1 低所得者世帯は2017年度より学力基準を満たさなくても申し込み可
注) 上記のほか、新たに返済不要の給付型奨学金も創設される。対象は住民税非課税世帯で、高い学習成績を収めている人を学校で推薦。2017年度より一部先行実施し、2018年度進学者から本格的に実施する。新制度に関する相談窓口は日本学生支援機構: 03-6743-6719

●入学前予約採用型給付奨学金の例

大学・奨学金名	給付額	採用候補者数
青山学院大学の塩、世の光奨学金	1~4年次 各50万円	約350人
早稲田大学 めざせ! 都の西北奨学金	1~4年次 半期分授業料相当額を免除	約1200人
関西学院大学 ランパス支給奨学金	1~4年次 学部により異なり 各30万~45万円	約150人

※情報は2017年度募集内容。青山学院大学の場合は、東京都の島しょ部も上の対象になる。詳しくは各大学のホームページなどで確認を。

上2校は、東京、神奈川、埼玉、千葉を除く人が対象

●その他の教育ローン

	融資額	主な使道	金利(年)	返済期間
ろうきん中央	最高1000万円	・学校納付金、受験料 ・学用品代 ・下宿の敷金・礼金 ・6か月以上の留学費用	固定金利 2.4~3.9% ※会社が団体会員などの場合、変動も選択可	15年まで
民間金融	最高300万~500万円程度	・入学金や授業料などの学校納付金	変動金利が主流で、2~4%台が多い	10年以内が一般的
学校提携の信販会社	最高500万円程度が一般的	・入学金や授業料などの学校納付金 ※会社から直接学校に振込	主に固定金利で3~4%台が多い	10年以内が一般的

※金利は2017年2月23日現在

●日本政策金融公庫「国の教育ローン」

融資額	子ども1人につき最高350万円 (条件に合う海外留学費用は450万円まで)
使道	学校納付金、受験費用、敷金・家賃などの住居費用、教科書代や通学費用など
金利(年)	固定1.81% (2017年2月23日現在)
返済期間	15年以内。在学中は元金据え置き可
借入れ条件	世帯の年間収入(年間所得)が下の金額以内であること
	子ども1人 790万円 (590万円)
	子ども2人 890万円 (680万円)
	子ども3人 990万円 (770万円)
その他	※子ども1人増えるごとに、年収は100万円ずつ加算 保証基金を利用する場合、保証料は融資額から一括で差し引かれる

世帯のいずれかの人が自宅外通学(予定)者であるなど、8つの要件のうち1つでも該当すれば、990万円(770万円)までになる

奨学金

教育ローン

最後に、
これもチェック!

入学前後にかかるお金

仕送りは月6〜8万円
初期費用も知っておこう

入学手続きがすめば、親はホッと
するのですが、実はまだ、いろいろ
とお金がかかることもあります。新
学期に必要な教科書代や通学定期
代などは、4月以降に渡せばすま
ますが、ここ数年は入学式の前に、男
女ともスーツや靴などを購入する家
庭がほとんど。スーツは就職活動に
も役立ちますが、一式で5万〜10万
円くらい。進学に合わせて新たにパ
ソコンを購入する人も増えています。

自宅外通学になったら、3月中旬に
アパートや寮などを探し、住まいの
準備をしなければなりません。ア
パートだと、下のように契約時の費用
と生活用品などの購入で平均50万
〜60万円。A君(P58参照)の場合は、
下の通り、入学までの初期費用とし
て約82万円もかかりました。学生
寮も保証金や管理費を含め、1年
契約で最初に50万円前後かかるこ
とが多いので、調べておきたいもの。
自宅外通学の場合、4月以降は仕
送りも必要になるので、下の生活費
を参考に予算を考えておきましょう。

●1人暮らしの学生の1カ月の生活費(地域別の平均額)

入学式用のスーツ代のほか
自宅外通学は住まいの費用も

●自宅外通学者の住居費の準備にかかる平均額

家賃	6万1200円	合計 57万8200円
敷金・礼金	20万3500円	
生活用品費	31万3500円	

東京私大教連「私立大学新入生の家計負担調査(2015年度)」より

初期費用例 東京の私大に進学した A君の場合

アパート探しの上京費用(親子で2往復)	3万2000円
アパート契約でかかった費用 (敷金・礼金、前家賃、仲介料)	25万3000円
電気製品や家具の購入など	24万5000円
パソコン購入&設定	20万2000円
スーツや靴など	9万1000円
合計	約82万円

